

PTA 社会教育 民生・児童委員 地方議会

テニスを通じて礼法学ぶ

NPO法人マナーキッズプロジェクト(田中日出男理事長、本部・東京)は、全国の学校、幼稚園などを訪ね、テニスを通してマナー向上運動に取り組んでいる。体育館などで、テニス経験があるボランティア講師が1対1の形式で子どもたちにテニスの基礎を指導。子どもたちは自分の番が回ってくるたびに、講師に視線を向けてあいさつする。礼法指導の専門家から学んだばかりの方法であいさつを繰り返すうち、わずか90分間で子どもの姿は大きく変わっていく。

このプロジェクトは、大手化学メーカーに勤めた田中さんが定年退職後に始めた。「人事畑が長かったこともあり、社員同士であいさつをあまりしないことが気になって。社内であいさつ運動を始めました」

学生時代はテニス部の主将として活躍した経験を持つ。社外で手掛けた第一歩は母校のテニス部での活動だった。練習の前と後には相手の目を見ておじぎ。それを繰り返すたびに、学生の姿は徐々に変わっていった。

あいさつの習慣はなるべく早く付けた方がいい。こう考えた田中さんは、協力者を募り小学校、幼稚園を訪問する体制づくりに着手した。平成16年のことだ。日本テニス協会とも一緒に活動するようにになり、規模は拡大。19年度は和歌山県、熊本県など98回実施した。

90分で変わる子ども

川崎市立日吉小学校はこの6月中旬に計4日間、児童全員がマナーキッズの講座を受けている。あ

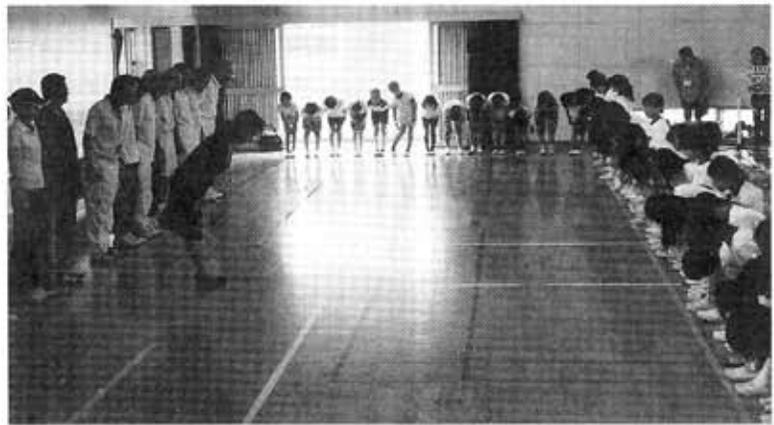
プレーのたびに繰り返す

おじぎや視線

小笠原流師範が手ほどき

礼法指導の講師は、室町時代に起源を持つ「小笠原流」の総師範、鈴木万亀子さん。児童を前に、おじぎは首ではなく腰を曲げること、あいさつの言葉はおじぎとは別に口にするなど話を語って、3年生の児童と一緒に練習した。

準備運動が終わると、テニス講師のボランティアは体育館内のコートに入る。1人につき数人の児童を担当。児童は順番にネットの向こうの講師から打ち方を教えてもらう。自分の順番がきたら、



礼法指導の専門家から「礼」について指導を受ける日吉小の児童(6月10日)

体育館には田中さんのほか25人ほどのボランティアが参加。多くは定年退職後のシニア世代。ラケットは片手で抱え込め、腰を曲げておじぎ。数球ほど打ったら、葉を口にするのはおじぎ活かし、そのOB会の縁の児童の番。コートをとば別に、テニスの練習

このプロジェクトは、体育館には田中さんのほか25人ほどのボランティアが参加。多くは定年退職後のシニア世代。ラケットは片手で抱え込め、腰を曲げておじぎ。数球ほど打ったら、葉を口にするのはおじぎ活かし、そのOB会の縁の児童の番。コートをとば別に、テニスの練習

練習を重ねた児童。背中が真っすぐだ



こうしてテニスを通してマナー指導が行われている最中、校舎内では1年生の児童を相手に、鈴木万亀子さんが礼法について話添田町立真木小) 問い合わせ「マナーキッズプロジェクト事務局 03-33339-6535、日本テニス協会 03-3481-2321

NPO「マナーキッズプロジェクト」

全国の学校、幼稚園に無料出前授業

はボレー、スマッシュ、エ、サーブと変わっていくが、あてられるたびに、あいさつの練習を繰り返す。

「1回の授業で子どもは必ず変わりますから」(田中さん)との言葉通り、児童は時間がたつにつれ、円滑におじぎをし、道徳で実施する。

6月24-25日(北九州市立香月小)、9月16日(北九州市立八枝小)、10月28日(名古屋市立千早小)、10月29-30日(青森県八戸市立新井田小)、11月25日(福岡県添田町立真木小)

問い合わせ「マナーキッズプロジェクト事務局 03-33339-6535、日本テニス協会 03-3481-2321

練習を重ねた児童。背中が真っすぐだ